

文化のみち物語 その五

しゅもくかん
榎木館と共に
坂野慎司
(NPO法人榎木倶楽部副理事長)



文化のみち榎木館まるはちの日企画
「日本のうたコンサート」
ソプラノ 河合しのぶ
ピアノ 佐溝草代
◆8月8日(水)PM6:30~7:00
◆榎木館は、当日PM5:00~8:00開館
◆入場無料

今年の4月、名古屋陶業を代表する加工問屋の一人、井元為三郎氏が大正末に建てた自邸が、名古屋市の施設「文化のみち 榎木館」としてオープン。長年井元邸にかかわりを持ち、現在暫定的に同館の管理にあたっているメンバーのひとり坂野慎司さんにお話をうかがった。

「榎木館にご縁のできたきっかけは、美術商というお仕事からと聞きました。」

1999年当時店子代表だったA.Tデザインさんに依頼されて、「骨董夜話」という催しの講師として来館。「名古屋にこんな場所があったんだ」と驚きましたね。ツタにおおわれた洋館や昔のままの静かなたたずまいに引かれ、洋館1階にあった喫茶店をたびたび訪れるようになりました。

「2002年末で店子が退去し、閉館ということになりましたが、そのときのお気持ちは？」

残念で、何より文化財指定を受けている建物が荒れていくのを見るのがしのびなかつた。それで、たまたま近くに引越してきたこともあり、手入れを買って出たというわけです。まず丸一年かけて樋などの水回り関係の調査と補修をしました。その後、井元家から万博終了時までには維持するという意向を聞き、地元市民団体の協力を得て世話人会を立ち上げ、庭仕事などの「家のおもり」

に加えて土曜の開館や貸室の運営のお世話もするようになりました。——建物が残るといふ展望がないままに、皆さんボランティアでされていたのですか？

とにかく文化財として、たとえなくなるにしても、一番きれいな状態で壊されてほしかった。そういう気持ちを受け止め、いろいろな人たちが使うことを心から喜んでくださる大家さんだったのが、ありがたかったですね。

「そのような市民活動が認められたこともあって、名古屋市により保存されることになったのです。今後、榎木館がどんな存在になってほしいと思われませんか？」

名古屋のまちの近代を振り返るところ。四季折々の風情が楽しめる、市民の憩いの場。そして、地元の方々がお客様や友人、恋人を連れていきたいような場所になってほしい。これまでいろんな人がいろんな形でここを使って市民発の文化が生まれる場ともなっていた。それも継続してゆけたら素晴らしいですね。



6月11日「単衣で楽しむ榎木館」が開催され、たくさんの人が呈茶、フルートデュオ演奏などを楽しんだ。

写真協力・榎木倶楽部 加美秀樹

貞奴・桃介ゆかりの場所 成田山貞照寺



わが国女優の祖、欧米では「マダム貞奴」とうたわれた川上貞奴(本名貞)は、昭和8年、62歳の年、岐阜県各務原市鷺沼に私費を投じて「金剛山桃光院貞照寺」を建立いたしました。敷地面積約6千坪の中に、本堂・鐘楼堂・仁王門・庫裏・書院・浄水舎・稲荷堂・縁起館、そして、未年生まれの貞奴が羊の石彫に守られながら、静かに眠る霊廟があります。

貞奴は夫・川上音二郎亡き後、初恋の人であり、よき理解者であった福沢桃介の協力のもと、大正7年「川上絹布株式会社」を設立。大正13年には「川上児童楽劇団」を結成。「御伽芝居」(子どものために大人が演じるおとぎ話)で全国を巡演しました。人気の演目「うかれ胡弓」の主人公少年フレッドに扮した貞奴の肖像画が、愛用の鏡台、机、火鉢、小箆筒、手書きの台本、唯一の舞台衣装とされる打掛などと共に、縁起館に展示してあります。また、幼少から成田山のお不動様を信奉していた貞奴が、生涯にいたいたお不動

様からのご加護が八面、彫刻されて本堂回廊の堂羽目になっています。

現在は、諸芸上達・芸能の寺として多く方のご参詣をいただいておりますが、貞奴没後、寺は一時荒廃し、昭和35年「成田山貞照寺」として修復再建されました。近隣の方々からは、除夜の鐘を突けるお寺、節分の豆まきができるお寺、桜や藤棚の下でお花見のできるお寺としても親しまれています。(渡邊千永)



貞照寺

岐阜県各務原市鷺沼宝積寺町5-189
TEL(0583)840202

■JR新鷺沼駅からタクシーで5分

■名古屋から国道41号線を北上し、犬山市五郎丸を左折、旧国道41号線から国道21号線に入り約2キロ

NEW SPOT

「文化のみち 百花百草」で 憩いのひとときを

2007年4月開館。ホールは庭園を見ながらお茶や時にはピアノ演奏も楽しめる、心なごむ空間となっています。



スタッフのみなさん

1920(大正9)年に建てられた書院・茶室と土蔵内のギャラリーは貸し出しもしています。文化のみち散策の折には、ぜひお立ち寄りください。

文化のみち 百花百草
名古屋市中区白壁4-91
TEL(052)93111036
FAX(052)93111037
●開館日：水・木・金・土曜
11時~16時
●入場料：大人500円、小・中学生200円
(フリードリンク代を含む)
*障害者用の駐車場完備
(一般の専用駐車場はなし)
構内バリアフリー

から 庫 蔵

文学ボランティア 山下達治

土居下でトンネルから抜けて、清水の駅に近づく、右手の高台に立つ風変わりな洋館の姿が電車の窓越しに目に入る。周辺の緑によくなじみ、いつか別の都市で見たことのあるような懐かしい風景を見るのは、瀬戸線で通勤していた頃のひそかな楽しみでもあった。

七年前の四月、芝居に関心のある教え子を伴って行き、「ほらこれが貞奴の二葉御殿だよ」と指差した先に、骨組みのむき出しになった、解体中の洋館があった。こうなることは知らずにいたので、驚きながらも、間近にこの洋館の最期に立ち会えたことに、感謝した。知らぬ間に、好きな建物が消えていたことを知ったときのなんともいえない気持ち、この何度も味わった気持ちだけは、免れたので、むしろほっとしたのだった。

移築復元された建物で、去年の二月、城山さんからご自身の著作をいただいた。ボランティアのメンバーにくださるために、買い物袋のような布袋に文庫本を詰めて、お宅から持ってきてくださったのだ。茅ヶ崎からお一人で来られたそうで、恐縮する前に心配した。濃いサングラスで目を覆われ、とてもやせておられた。とつとつとお話くださった。

城山さんに生前に、ほんの少しだけお役に立てたことに、感謝している。